

表紙の写真

Uncaria rhynchophylla (Miq.) Jacks. カギカズラ, 釣藤鈎, rhynchophylline (奈良県桜井市にて, 1997年6月14日)

釣藤鈎はアカネ科のカギカズラなどの鈎刺(茎枝の一部をつける)を基源とする生薬で、古来、高血圧疾患に用いられてきました。近年、これを主薬にした漢方方剤「釣藤散」に、脳血管性痴呆を改善する効果が二重盲検法で証明され、脚光を浴びています。釣藤鈎のアルカロイド画分、フェノール画分または含有成分に、脳虚血による空間学習行動障害の予防効果や遅発性神経細胞死抑制作用 (*in vivo*)、神経細胞保護作用やセロトニン受容体機能抑制作用 (*in vitro*) が認められるなど、薬理学的に作用機序を解析する研究が着々と進んでいます。